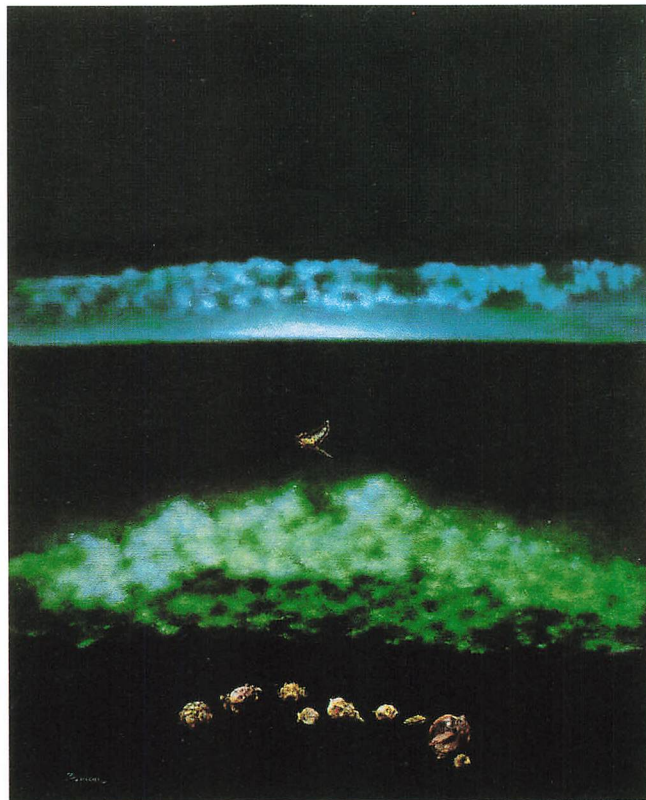


友

友の会会報

TAKAYAMA-UICHI MEMORIAL MUSEUM OF ART

〒039-2501
青森県七戸町鷹山宇一記念美術館内
TEL.0176-62-5858 FAX.0176-62-5860
e-mail.takayama-museum@town.shichinohe.aomori.jp



鷹山宇一『小さな世界』(キャンバス・油彩) 1993年 72.8×60.8cm
1993年 春季二科展出品 【個人所蔵】

……ミュージアムコレクションから⑤
鷹山宇一『小さな世界』……

三姉妹の長女に生まれた私は、鷹山姓を名乗っていましたが、長い間子どもがおりました。父・宇一はそんな私に「鷹山の家が君の代で終わって何が悪い。」と申し、決して跡取りのことは口にしませんでした。父母の思いはよくわかっていながらも、毎年歳を重ねていきました。

そんな四十歳を優に超えた私に、誰しも想像だにしていなかった突然の男子出産でありました。なにより八十四歳で嫡孫に巡り会えた父の思いは言葉で言いつくせぬものがあり、画家鷹山宇一は、この無上の喜びを、作品「小さな世界」で表現をしました。

生物の母体である海を主題に、波打ち際に遊んでいる小さな蟹を手前に描き、その子蟹を見守るがごとく波上に蝶が飛び、遙か水平線には、父の託した夢や希望が光り輝いている。——文字通りの逸作であります。厚意で美術館に飾られているこの作品を見るたびに、溢れるばかりの父の愛情と、わが子を初めて抱いた時の感動が昨日のごとく甦ってきます。

お七夜の時、父はそつと赤ん坊を胸にし、「七年間には長生きしなければ坊やに忘れられてしまう。」と笑いながら、「よく生まれてきた。人間は生まれて来るだけで価値があるのだ。」と言葉を続けました。

私たちが娘が生まれた時、孫たちが誕生した時、又、己自身を奮い立たせるとき、父は何度かこの言葉を口にしたのでろう。

——人間は生まれて来ただけで価値がある——
私もこの言葉を反芻しながら涙を押さえることができませんでした。

「風樹の嘆」の如き、孝養を尽くしたい時には親は待つていませんが、「小さな世界」は、私にできたたった一つの親孝行のまねごとでした。

(館長 鷹山ひづり)

新連載

鷹山宇一記念

美術館収集作家の一人、鳥谷幡山について濱中達男常務理事より寄稿頂き、本号から連載いたします。十和田湖を世に紹介した画家の粋をみだしたユニークな研究も続けた鳥谷幡山。様々な角度からその画業と生涯に光を当てます。ご高覧下さい。

幡山ってどんな人

濱中 達男

鷹山宇一記念美術館が開館してから創設期の十年を過ぎ、十一年目を迎えました。美術館では、鷹山宇一の他に、郷土七戸町出身の鳥谷幡山、平野四郎、七戸町ゆかりの上泉華陽等の資料を収集、保存し、調査研究をして、公開をしながら芸術、文化の教育振興に努めております。

昨年は「探南文化研究所」主宰の高井憲夫氏が、公民館講座で、鳥谷幡山をテーマに話され、再確認すべき郷土の一人としております。続いて年末には、盛田稔先生監修の図説



鳥谷幡山 八十三歳

「上北・下北の歴史」が刊行され、その中で「十和田湖を紹介した影の男」（山崎栄作・文）と題して、七戸出身の画人・鳥谷幡山に光を当てています。

この度、この美術館に関わる者として是非力ですが、鳥谷幡山の略歴を辿り、画業と生涯について記録しておくべきと考えました。幸いなことに幡山は、回顧録の他に沢山の書籍、画集、寄稿文等を遺してあります。私には小学時代、広い座敷の真ん中で絵を描いている、白髪の幡山の記憶もあり、半世紀前の情景を想いますと感慨深いものがあります。エピソードを交えながら、数回に分けて書いてみたいと思います。

幡山は昭和三十三年、八十三歳で「回顧六十年」を著しています。その巻頭には、「老境の感」として、幡山自身が、辿った八十余年を顧みて、率直に心情を吐露した文章があります。幡山を知る上で、重要と思えますので紹介しておきます。

以下「老境の感」

「画の道へ志した私は、其修行と殆んど同時に探勝せし郷土の神苑十和田湖の頭影に努め、傍ら青年作家奨励事業に没頭し、又師匠の没後は其筆蹟を考究むることとなって、序次遂の他の鑑定をも課せられ、更に神代太古史と心靈研究に携わることから兎角途草が多く、到底満足の結果を得られぬことが知れ切っているもの、而も之が不思議にも、互いに微妙な関聯を持ち続けられたと云ふのも、私に課せられた自然の運命

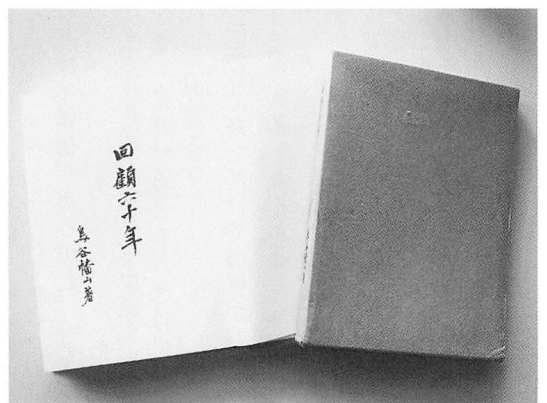
であり、真に奇しき因縁とせねばならぬ。

人長寿なりとも貴からず。徳あるを以て尊としとは、彼の唯物主義から来た支那流の、「山高しと雖も尊からず」云々を振ったものであらうが、私にとつては徳と云ふものが無いから、負惜みか知らねど、或信念からして其末句に「使命を果すを以て尊しとす」と附加へたいのである。

顧みれば明治二十八年春二十歳で初めて東京遊学このかた、不惑、知命、耳順の年は愚か古希や喜寿をも過ぎ、更に八十余才の老齢を重ね来たことは、唯々往事茫茫夢の如く実に感慨無量である。

古来十年一昔と云ふから、私は正に六ツ昔の世の中を経過したことになる、而も此間種々時代の変遷と共に身に絡まった紆余曲折があったにしても、ツラツラ考へて見ると一体今日迄何をして来たのか、唯是夢幻の如くに過ぎたのであり、例令嘘は言はず、悪い事をせぬ迄も相当に頑迷で剛直な為に、何れ程下手をし又人々に逆って、迷惑をかけ来つ事か、今更ながら懺悔せずにはゐられないものがある。

昔狩野探幽齋の跡継に探信と云ふ方があった。世の人は通称下手探信と呼んだが、是は岳父の探幽が余りに名手であり、大名を聘せられた対比上から来てゐるが、私も亦御多分に洩れず、画技練達の広業門下として且つ美校へ入学以来、雅邦教室の同僚からも蔭で下手幡山と呼び做された程の阿蒙鈍物であった。元々私は少しく晩学（手法上）で且つ不器



昭和33年出版

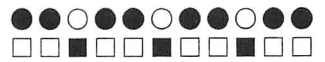
用の質であり、練磨も足らぬ稚拙の結果、斯様の貶称を蒙ったのであるが、然し此下手と上手とは唯夫れ小手先の技工上の事か、それとも内容や精神迄も見透し得た上の事であらうか。閑話休題、茲に自伝のやうな私記を叙するに当って、美術界にしても彼の文展が帝国日展と変遷して数十年を経た今日、以下記すことは明治中期からの事であって、其頃は未だ徳川末期の遺風があり、今から見れば風物添景も全く時代離れの感であらうが、此を率直に赤裸々に記すことに於て、多少其時代の真相を掴み、趣味や好尚の変化をも味ひ得る処があるならば、著者は寔に望外の幸とするのである。」

と記しています。

つづく

【財】鷹山宇一記念美術振興会常務理事

友の会会員



平成18年度
特別展

下記のとおり決定！
皆様のご来館を
お待ちしております

①

4月23日(日)～6月4日(日)
箱根・芦ノ湖成川美術館コレクション
～花逍遙～
四季折々の花たち展

②

6月10日(土)～6月18日(日)
第66回国際写真如展
第4回女性写真公募展

③

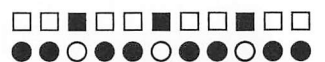
7月30日(日)～10月9日(月・祝)
津和野町立安野光雅美術館コレクション
安野光雅の世界展(仮称)

④

11月19日(日)～1月28日(日)
第6回鷹山賞児童作品展
第6回地球環境世界児童
画コンテスト優秀作品展

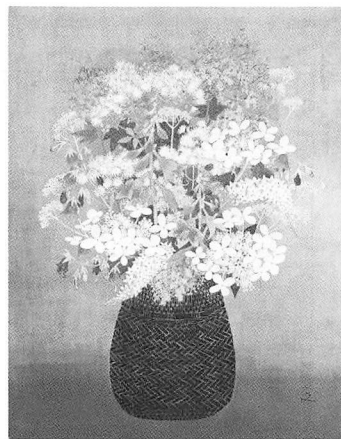
※①～③会期中は無休※

入館時間
10:00～17:30
(閉館は18:00)



① 箱根・芦ノ湖成川美術館コレクション
花逍遙～四季折々の花たち展

春夏秋冬・四季に恵まれた日本には、全国各地に豊かな自然があります。古くから、日本人は花鳥風月を友とし自然の中に美を見出すことは当然至極のことでした。特に「花」は、私たちの日常生活にとけ込み、身近にある美しきものとして人々は愛で、欠くことのできない存在となつていきます。芸術家たちも無論のこと、古今を問わず、美しい「花」たちを題材に数多くの名作を残しています。このたび、箱根・芦ノ湖成川美術館コレクションより、「花」を主題と



▲堀文子「高原の花」1985年

箱根・芦ノ湖成川美術館コレクション
花逍遙～四季折々の花たち展
Information

■入館料(税込)■一般850(650)円、
学生400(320)円、小中学生200(160)円
※(*)内抽売、団体、県民割、受講者、
JAF会員割別料金。
※前売券はサークルKサンクス県内各店
でお求めいただけます。
※友の会会員の皆様は特典通りご入館
いただけます。

■お呈茶■5月7日(日)
「茶道裏千家七戸会」によるお呈茶
のサービスがございます。

変化に富んだ日本の四季を、「花」を通じて多彩な表現で描いた本展で、今を盛りとする壮麗華麗な花やひっそりと野に息づく可憐な花たちをこ堪能いただけましたら幸いです。長く厳しい冬を堪え忍んだ北国の春は一気呵成です。爛漫の春の一日を美術館の「花逍遙」でお楽しみ下さいませよう、ご来館を心からお待ちしております。

した作品を一堂に会し「四季折々の花たち展」を開催いたします。前回大好評を博しました「さくら・桜展」に続くこの花シリーズでも、我が国を代表する画家たちの眼から見た優美な「花」の世界をご紹介します。

② 第66回国際写真サロン展
第4回女性写真公募展

当館恒例の特別展「国際写真サロン展」は、写真表現の可能性に挑戦し、プロ・アマ、国内外を問わず応募できる、全日本写真連盟主催の写真コンテストから、入賞作品全130点を紹介するものです。また併催して、全日本写真連盟関東本部管内の女性会員をはじめ、この地域の一般女性を対象に作品を公募する「第4回女性写真公募展」から、入賞作品50点を紹介いたします。

③ 津和野町立安野光雅美術館コレクション
安野光雅の世界展(仮称)

で描き込まれながらも落ち着いたやさしい雰囲気漂う作品で、多くの人々を魅了しています。その制作意欲は衰えることなく、折々に国内外を旅されて叙情性あふれる風景画を描くなど、80才を迎える今日も画家、絵本作家、エッセイストなど幅広く活躍されています。今展では、故郷の島根県津和野町に2001年開館し、多くの安野ファンが訪れる津和野町立安野光雅美術館コレクションから、好奇心と想像力、そして遊び心から産み出された独創性あふれる安野作品を一堂に紹介し、あらためて、画業を振り返りその多彩な魅力に迫ろうというものです。観る者の想像をかき立てる作品は、わたしたちを心の世界へと誘います。世代という垣根を超え、子どもから大人まで広く親しんでいただける「安野光雅の世界」を、親子で、ご家族で、ご満喫いただけましたら望外の幸いに存じます。

④ 第6回鷹山賞児童作品展
第6回地球環境世界児童画コンテスト優秀作品展

郷土の画家・鷹山宇一を顕彰し、「子ども感性」は風土の中で培われる」との精神の下、青森県南部地方小中学校児童生徒に作品を公募する「鷹山賞児童作品展」から、入賞・入選作品を展示します。また、併催として、財団法人日本品質保証機構、国際認証機関ネットワークが主催する、世界各国の子どもたちに地球環境をテーマに作品を公募した絵画コンテストから、優秀作品を紹介します。

美術館日誌

【12月】

- ▼1日/定例スタッフ打合せ会議
- ▼2日/町立七戸小学校6学年来館
- ▼3日/美術館あそびとクラブ「クリスマスカードを作る」開催
- ▼4日/いちようっ子くらぶ、八戸市山海サミット児童交流事業「クリスマスカードを作る」開催
- ▼6日/鷹山館長十和田市立法奥小学校において講演
- ▼7日/鷹山館長「東青地区主任児童委員及び子育てメイト合同研修会」において講演
- ▼8日/鷹山館長五戸町立川内中学校において講演
- ▼9日/町立七戸小学校5学年来館。鷹山館長生涯学習審議会出席のため青森出張
- ▼10日/鷹山宇一誕生記念日「遊蝶記」につき終日無料開館。遊蝶記の集いを開催。美術館電気定期点検
- ▼11日/七彩会油絵教室開催
- ▼13日/火曜サロン開催
- ▼15日/定例スタッフ打合せ会議
- ▼16日/鷹山館長町立七戸小学校新校舎完成式典へ出席。青森テレビ番組収録のため鷹山館長を取材
- ▼20日/町立七戸小学校3学年来館
- ▼21日/町立七戸小学校4学年来館
- ▼22日/定例スタッフ打合せ会議。鷹山館長青森放送ラジオ対談番組収録のため青森出張
- ▼30日/年末年始休館(1月3日迄)

【1月】

- ▼4日/美術館仕事始め。鷹山館長七戸町新年祝賀会に出席
- ▼5日/定例スタッフ打合せ会議
- ▼6日/鷹山館長青森テレビ新年祝賀会に出席
- ▼7日/鷹山館長「新郷村連合PTA研究集会」にて講演、東京出張(10日)
- ▼12日/定例スタッフ打合せ会議
- ▼13日/鷹山館長七戸町商工会新年会へ出席
- ▼17日/鷹山館長第2回七戸町学社連携検討会議へ出席
- ▼19日/定例スタッフ打合せ会議
- ▼20日/鷹山館長「三沢市保健協力員、食生活改善推進員合同研修会」において講演
- ▼21日/七彩会油絵教室開催。友の会役員会並びに新年会を開催。
- ▼22日/鷹山館長「気仙沼市母子寡婦福祉連合会設立55周年記念講演会」において講演
- ▼25日/鷹山館長生涯学習審議会出席のため青森出張
- ▼26日/定例スタッフ打合せ会議
- ▼27日/「成川美術館展」打合せのため青森出張(鷹山館長大池)
- ▼28日/鷹山館長むつ市連合PTAにおいて講演
- ▼31日/館内整備のため臨時休館(2月10日迄)

【2月】

- ▼9日/絵馬懇談会開催
- ▼11日/ミュージアムコレクション展初日(4月16日迄)
- ▼12日/東北町フレンズ婦人学級9名様ご来館
- ▼18日/七彩会油絵教室開催

子どもたちのための
ワークショップから
Report!!!

●●●●●●●●●●

いちようっくらぶ
あ〜と!くらぶ

「いちようっくらぶ」からは、12月4日の「山海子どもサミット」の牧場見学、クリスマスカードづくりの様子をご紹介します。

山海子どもサミットとは、国土交通省の「港・海辺活動振興助成事業」として、八戸市の「八戸みなとまちづくり市民フォーラム(桜沢孝子代表)」の主催で開催されました。海辺の八戸市と内陸の七戸町の子どもたちが互いの町を訪ね、自分たちの暮らしについて学ぼうというものです。



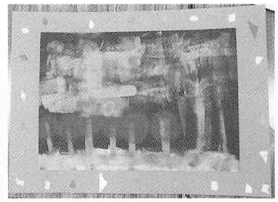
当日は、まず諏訪牧場にて、まず諏訪牧場にお話を伺いました。八戸市の子どもたちは、真っ白に降り積もった雪に大はしゃぎです。妊娠してお腹の大きなお母さん馬をみて、命の大切さを学びました。

牧場見学の後は、美術館でクリスマスカードの制作をしました。スポンジで色をつけ、台詞に貼って飾りつけをします。クレヨンでメッセージ

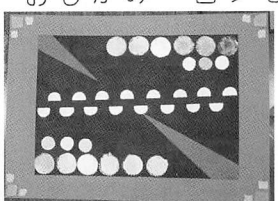


を入れて完成です。最後にみんな記念撮影。いろんなことを勉強した一日でした。

「あ〜と!くらぶ」からは、10月29日の「絵画×季節の色を感じよう」の様子をご紹介します。



この活動は、季節の色を目で観察し、発見した色を使って絵を描くというもので、9月と10月に活動を行いました。まずは中庭で色のメモ帳に自分が発見した色を記録していきます。9月に比べると自然の色がとてみ変化していることにみんなびっくり。9月には見られなかった色を見出すと、みんな大急ぎでメモをとります。その記録をもとにローラーやスタンプで思い思いの色をのせていきます。完成作品はどれもみんなの持ち味を生かしたものになりました。お部屋に飾ってほしいですね。



おすすめ美術館

奥山庸子

私のおすすめ美術館は、東京国立近代美術館です。地下鉄に乗って竹橋で降りるともう目の前にこの美術館を見ることが出来ます。美術館の周辺には皇居があり、都会にしては多くの緑を残しています。

ここでは近代美術の企画展の他に、現在活躍中の作家の企画展も多々開催されています。人気のある展示の時は長蛇の列となり余り快適に見ることは出来ませんが、そんな場合は金曜の夕方か夜がおすすめです。これに対して現代

美術系の展示の場合は、休日のお昼に行ったりしても、とても快適な環境で作品を鑑賞することができます。

さて、企画展も興味深いモノがたくさんありますが、私が一番におすすめするのは常設展です。観覧者の導入方法も面白く、まず最上階までエレベーターで上がりまして、そこから下っていくという造りなのです。

ここには歴史の教科書に度々登場する有名な作品が数多く展示されています。現在では印刷技術の発展もあり、非常に精巧な印刷物などにより作品を眺めることが出来るようになりましたが、それでもやはり本物を見るということにはかないません。至る所で日本を代表する洋画・日本画・彫刻を目の当たりにすることが出来ます。また、

常設展といましてもちよくちよく展示替えを行っており、行く度に違う作品と出会えます。なので、「お目当ての作品が、行ってみたら別の作品に入れ替わっていた」ということもあるでしょう。それも楽しみの一つといえるでしょう。

特に私は洋画の展示をおすすめします。もしかしたら近代洋画の種類の多さでいえば、ここが一番かもしれません。かなり内容が濃い美術館なので、全て見るには時間がかかってしまうことでしょう。美術館の中にはカフェがあるので、疲れたら、そこで一服してみたいと思います。ただ、営業時間が短いのでその点に注意してください。

(友の会会員、七戸町出身、日本大学芸術学部在学中)

東京国立近代美術館

Information

- 開館時間／10:00～17:00 (入館は16:30まで)
金曜日は20:00まで (入館は19:30まで)
- 休館日／毎週月曜日 (祝日又は振替休日に当たる場合は開館し、翌日閉館)
その他作品入替のための臨時休館日あり。
- 入館料／一般420円、大学生130円、高校生70円
小・中学生、65歳以上は無料です。
※20名以上は団体割引があります。
※特別展開催中には料金に変更になります。
※無料観覧日：毎月第1日曜日の所蔵作品展のみ
- レストラン【クリーンアリス・アクア】
※ランチ、アラカルト、ディナーあり
※座席数60席。皇居のお堀をのぞむ、明るいレストラン。館外からも直接ご利用になれます。
- 交通案内
※東京メトロ東西線竹橋駅1b出口 徒歩3分
- 問い合わせ先＝東京国立近代美術館
〒102-8322 東京都千代田区北の丸公園3-1
TEL. 03-5777-8600 URL <http://www.momat.go.jp>

コレクションと展示の概要

昭和27年(1957年)12月中央区京橋に日本で最初の国立美術館として開館。その後北の丸公園に移転。平成14年1月にリニューアルオープン。絵画・彫刻・写真などおよそ9,200点の美術作品を所蔵。所蔵作品展は4階から始まり、3階、2階へと時代順にフロアを下っていく構成になっている。

<4階>

- 第1章-1 明治・大正期の美術 文展開設前後
- 第1章-2 明治・大正期の美術 大正のヒーローズ
- 第2章-1 昭和前期の美術 都市の中の芸術家

<3階>

- 第2章-2 昭和戦前期の美術 日本画・洋画の成熟
- 第3章 戦時と「戦後」の美術
- 第4章 1950-60年代の美術

<2階>

- 第5章 現代美術-1970年代以降

平成18年度友の会研修旅行

好評の友の会研修旅行。18年度春は秋田市内の美術館を計画しました。展覧会日程の関係で総会前の実施となりましたこと、ご了承下さい。また、バスの定員の関係で募集人員が限定されます。お早めにお申し込み下さい。

なお、本年は県立美術館や弘前市で開催の「日展」などを予定しております。

春の研修旅行

- ◆研修先 秋田市
- ◆日時 2006年5月28日(日)
- ◆募集人員 25名
- ◆参加費 20,000円(交通費、入館料、昼食費を含みます。)
- ◆切符等を事前購入のため、参加費を添えてお申し込み下さい。
- ◆申込期日 2006年4月25日(火) 日中
- ▽午前7時七戸南公民館出発(バス)
八戸駅から新幹線にて秋田市へ
平野政吉美術館(近代の洋画と版画展)フジタさん(いつてらっしゅ) 画展「留守は我が家」
- ・秋田市立千秋美術館「小磯良平展」
「気品あふれる美の世界」
- ▽秋田市午後3時出発 (新幹線)
バスにて七戸着 午後7時予定
- ▽【詳細日程は、後日参加申込みの方に送ります。】
- ◆お申し込み・お問い合わせ先
鷹山宇一記念美術館
電話 0176(62)5858

芦ノ湖・富士が見える

成川美術館にお出かけ下さい

平成16年の開館10周年記念展「～春光うらら～さくら・桜展」で大好評の箱根・芦ノ湖 成川美術館コレクション展。4月23日「～花逍遥～四季折々の花たち展」の開催にあわせ成川美術館をご紹介します。

箱根・元箱根の芦ノ湖を見下ろす絶景の地にある成川美術館は昭和63年に開館。現代日本画家の作品約4000点を有する個人美術館です。

「個人の美術館として国、県、町の一切の援助を受けず、よく運営できたとその幸運を喜んでおります。これも当美術館を何度も訪れていただきリピーターの方を始め、美術館を愛して下さる多くの人の賜と感謝しております。↓



▲成川美術館全景

人の奥深くには抑えても抑えきれない美に対する憧憬があるはず。今後も私と同時代にこの世に生を受けた芸術家のすばらしい作品を後世に伝えるためにも、あくまでも現代日本画にこだわり、さらに一生懸命努力してまいります。」

(『成川美術館所蔵名品展・華麗なる四季の調べ』所収、成川美術館館主・成川實「私のコレクション」より一部抜粋)



▶「四季折々の花たち展」で展示される岡信孝「紅白花」2000年

成川美術館ご案内

入館料
 一般 1,200円 (高校生以上)
 小・中学生 600円

開館時間 9時～17時

年中無休

交通アクセス
 ☆小田急・箱根登山「箱根湯本」, 「小田原」又はJR「小田原」より「箱根町」行きバスで「元箱根港」停留所前下車徒歩3分

企画展
 年4回展示替え

お問い合わせ
 成川美術館
 ☆TEL 0460-3-6828

友の会会員登録の更新と新規会員入会お誘いのお願

本年も会員の皆様には、友の会運営に多大なお力添えをいただき、誠に有難うございます。新年度も鷹山宇一記念美術館の応援と会員の皆様方に芸術・文化に一層親しんでいただけたら、研修旅行、講演会などを企画し、微力ながらも地域文化に寄与していく所存でございます。

○一般会員 会費(個人) 年度会費 3千円

【特典】

- ① 無料入館券3枚。会員証提示により入館料2割引
- ② ミュージアムグッズ1割引
- ③ 研修会、講演会への招待、優待
- ④ 他美術館等の視察研修への優待参加
- ⑤ 会報の配布

○特別会員 会費(個人・法人) 年度会費 1万円

【特典】一般会員特典に加えて

- ① 会員証提示により個人・法人会員とも本人及び同伴者1名まで無料入館
- ② 新規加入の方に画集1冊贈呈

○賛助会員 会費(個人・法人) 年度会費 2万円

【特典】一般会員特典に加えて

- ① 会員証提示により個人・法人会員とも本人及び同伴者3名まで無料入館
- ② 新規加入の方に画集1冊贈呈
- ③ 特別企画展の都度、招待券を贈呈

■詳しくは、美術館までお問い合わせ下さい。

★ダ・ヴィンチ・コードの主人公に会えたかも！

★ベストセラーになつた小説「ダ・ヴィンチ・コード」。わくわくしながら読んでいたら最終章で主人公が再会を約束したのがフレイッシュのホテル。その名は「ブルネレスキ」。何と友の会主催の「イタリアルネサンス美術紀行」で2004年に2泊したホテルではありませんか。まあ、たわいのないことですが、思わず微笑み、とつても嬉しくなりました。(会員 M.O.)

編集後記

★今春の美術館は成川美術館所蔵の「花シリーズ」。どんなにか華やいだ気分をさせてくれるやら。期待でいっぱいです。

★友の会春の研修旅行は秋田市に出かけます。日帰りのため滞在時間も魅力的な企画展で楽しみます。

★本号は、美術館の平成18年度企画展掲載のため発行が遅くなりました。ご容赦下さい。(E.T.)